

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、青森県内にも本格的な大学受験シーズンが到来する。八戸市内の2大学は、16、17日に予定する大学入学共通テストの会場となるほか、全国の受験生が訪れる大学個別の一般入試も控え、緊張感を高める。コロナ禍の新たな対応を模索する現場の担当者は「受験生が不安なく試験に集中できるように対策をしていきたい」と話す。

（金濱千優希）

運動部の活動が盛んな八戸学院大では例年、県外から受験に訪れる生徒も多い。本年度は、入試に関する運営委員会が、学内で感染症対策に取り組みプロジェクトチームの助言を得ながら、入試の在り方を検討してきた。

昨年12月には一般入試に先行する形で、学力以外の評価を重視する総合型選抜を実施。対面式の面接を取りやめ、自己PRや事前に定めた質問に対する回答を動画に収めて提出してもらうなど、来学の必要がない方法で可否を判断した。同大キャリア支援課の

八戸市内の2大学

入試控え緊張感

自己PRなどの動画提出／控室や時間調整

コロナ禍、新たな形模索

山下祐史係長は「面接だ

と緊張して本来の良さを

と発揮できない生徒もいると思うが、動画では自然

な姿が見られた。今後に向けて、受験の新たな方法を

法を見つけられた」と先を見据える。

八戸工業大では同11月の学校推薦型選抜の際、ある県外の生徒に対応。

事前に受験生が通う高校の教諭から「学内で陽性者が出て学校が閉鎖になる。受験は可能か」との相談があったため、ほかの受験生と接触しないよう控室の準備や面接の時間を

変更するなどの対策を講じた。

将来の夢や目標達成に向けて、大学受験に懸ける生徒は多い。体調不良を隠して受験する懸念も

あることから、同大入試課の蛭名昭人課長は「相談してくれば、救済できる措置もある。感染の可能性があるときには、すぐに連絡してもらいたい」と呼び掛ける。

同大はセンター試験の会場としても利用されてきた。大学入学共通テストとなる本年度も、八戸圏域や岩手県北地方の受験生760人を受け入れる予定だ。

感染症対策として例年の約2倍の試験室を設け、生徒たちの不安を

払拭できるよう準備。消毒作業や、試験官の確保など現場の負担は増えるが、蛭名課長は「受験生を一番に考えなければならぬ。会場では安心して試験を受けられるようにしたい」と話

す。

あることから、同大入試課の蛭名昭人課長は「相談してくれば、救済できる措置もある。感染の可能性があるときには、すぐに連絡してもらいたい」と呼び掛ける。

同大はセンター試験の会場としても利用されてきた。大学入学共通テストとなる本年度も、八戸圏域や岩手県北地方の受験生760人を受け入れる予定だ。

感染症対策として例年の約2倍の試験室を設け、生徒たちの不安を

払拭できるよう準備。消毒作業や、試験官の確保など現場の負担は増えるが、蛭名課長は「受験生を一番に考えなければならぬ。会場では安心して試験を受けられるようにしたい」と話

す。

あることから、同大入試課の蛭名昭人課長は「相談してくれば、救済できる措置もある。感染の可能性があるときには、すぐに連絡してもらいたい」と呼び掛ける。

同大はセンター試験の会場としても利用されてきた。大学入学共通テストとなる本年度も、八戸圏域や岩手県北地方の受験生760人を受け入れる予定だ。

感染症対策として例年の約2倍の試験室を設け、生徒たちの不安を

払拭できるよう準備。消毒作業や、試験官の確保など現場の負担は増えるが、蛭名課長は「受験生を一番に考えなければならぬ。会場では安心して試験を受けられるようにしたい」と話

す。

あることから、同大入試課の蛭名昭人課長は「相談してくれば、救済できる措置もある。感染の可能性があるときには、すぐに連絡してもらいたい」と呼び掛ける。